

京都大学大学院農学研究科 生物資源経済学専攻主催  
第84回(2021年度)「京都大学 食と農のマネジメント・セミナー」  
第3クラス「農業食料組織経営 公開講座」

## 「農業を買い支える仕組み」の創り方

### —CSA (コミュニティが支える農業) の普及を考える—



共催 同専攻農業食料組織経営学分野  
学術振興会科学研究費補助金(基盤A)  
「ローカルから食農システムの再生をめざす比較社会・政策研究:  
コロナ後を見据えて」(秋津元輝代表)  
後援 「農」イノベーションひょうご推進協議会  
一般社団法人 農業開発研修センター

「農業食料組織経営 公開講座」はこの4年間、「農業を買い支える仕組みの創り方」と題して、アグリビジネスの社会的責任(CSR)事業や、産消提携・フェアトレードなど倫理的調達の望ましいあり方、そしてそれらを普及させる方策などを議論してきました。

本年度は、欧米で普及が進む CSA (コミュニティが支える農業) を取り上げます。CSA とは、持続的に生産・生活できる水準の農産物販売代金を、消費者グループが地元の有機農業者に対して先払いする...農業者はそれを資金に有機農産物を生産し、ボックスに入れて消費者が待つ配送ポイントまで運搬する...という、有機農産物をめぐる産消の提携型の取引です。日本の産消提携を参考にはじまったと言われておりますが、その日本において CSA の数は、10 に満たないほど少ないのが現状です。しかしながら、兵庫県の「農林水産ビジョン 2030」において CSA 推進が謳われるなど、ポストコロナの時代において求められる「持続可能な地域協働体制」の1つとして、位置付けられるようになりました。

生産者を支援できる農産物の買い方に興味を持つ消費者の方々、持続可能性の高い農産物の売り方に興味を持つ農業者の方々、その普及を促したい行政・NPO などの皆様はもちろん、CSA の創り方や望ましいあり方について意見を述べて、CSR の普及に関与したい多様な皆様の参加をお待ちしております。

本年度はコロナ禍にあり、Zoom で1日だけの規模を縮小した開催とします。講座の終了後には、参加者によるその後の協働が容易になるよう、同じく Zoom を利用した交流会(自己紹介、情報交換の場)を設けます。

#### ■ 11月20日(土) ■ オンライン (Zoom) 開催

9:50~10:00 開講の挨拶 京都大学農学研究科・副研究科長 秋津元輝

10:00~10:30 解題「農業を買い支える仕組み」 京都大学農学研究科・教授 辻村英之

10:30~12:00 基調講演 CSA の創り方—CSA の[C]とは何か—

三重大学名誉教授・CSA 研究会代表 波多野豪

- 13:00～14:00 CSA の創り方①—消費者視点からのアプローチ  
:「みんなの畑＝みんパタ」プロジェクトの経験から学ぶ—  
みんパタ Project 代表取締役・全国愛農会会長 飯尾裕光
- 14:00～15:00 CSA の創り方②—生産者視点からのアプローチ  
: BIO CREATORS の経験から学ぶ—  
ナチュラリズムファーム代表取締役 大皿一寿  
座長 辻村英之
- 15:15～16:45 ディスカッション  
質疑応答  
意見交換「CSA の普及を考える」
- 16:45～16:50 閉講の挨拶 辻村英之
- 17:00～18:00 交流会（自己紹介・連絡先交換）  
進行 京都大学農学研究科・講師 鬼頭弥生

受講定員・料金 40名・500円

#### 申込方法

- a) 申込期間 2021年11月17日（水）まで（定員になり次第締切り）  
b) 申込手続き <https://forms.gle/xcLMCfq9ctKJMeG9>



上記から申込をお願いします。登録いただいた Email アドレスにまず、記入内容複写（振込先も記載）が送付されます。11月19日（金）12時までに、指定の銀行に振り込んでください。その後、参加方法と Zoom URL を同じく Email で送付します。

#### 連絡先

〒606 8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学農学研究科生物資源経済学専攻 公開講座 係

電話：075-753-6200